

聖書考古学資料館 主催 初夏の講演会

「新約聖書時代の宣教経路」

— 神のみことばの歴史的眞実に迫る —



講師 原口 貞吉先生

2015年 6月20日(土) 14:00-16:00 お茶の水クリスチャンセンター 415号室

主イエスやパウロの「宣教経路」を考古学的に調べたものは、わが国では多くない。福音が伝わりはじめた時代、ローマ帝国や、ユダヤには軍事、交易、その他一般に用いられる道があった。これを調べる手がかりとして、ローマが1マイルごとに立てたマイルストーン(道路標識)や街道遺跡、ローマ時代の地図写本、歴史地理の古典文書類、などが存在するが、これらの史料と聖書の記述はどれほど整合性があるのか、また、聖書以外の史料を用いて聖書の歴史的、地理的記録の眞実にどこまで近づけるのだろうか。

ローマ帝国が勢力を広げるにしたがって、街道も、マイルストーン設置も拡大し、ローマ帝国の道路網は整備された。聖書に関係する地域の主要幹線街道は 以下のような流れで成立している。

イタリア・アッピア街道(紀元前4世紀)、ギリシア・エグナチア街道(紀元前2世紀)、

トルコ・マニオス アクイリウス街道(紀元前2世紀) セバステア街道(紀元前1世紀)、イスラエル(1世紀末)。

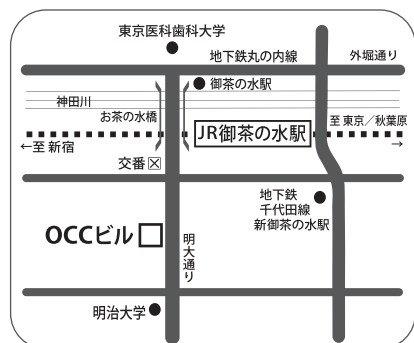
時代の変遷とともに、ローマ道路もマイルストーンも人々の記憶から忘れ去られ、放置されたが、20世紀初頭あたりから、それらの歴史的価値が見直されるようになり、現在では100年を超える研究の蓄積がある。パレスチナの場合、現在、600余個のマイルストーンが発見され研究されている。マイルストーン個々の発見地をつなぐと、そこに現れた軌跡が、その時代の街道ルートである。

そのほか、地図、旅程表、地名辞典などの経路に関連する写本類が現存する。これらを通して、ユダヤを含むローマ世界の地名、経路と都市間の距離、街道の成立年代などの情報を得ることができる。

講演の主要な目的は、現存する諸史料を紹介して、解説を加え、それをもとに新約聖書時代の宣教経路を検討して、神のみ言葉の歴史的眞実に近づくことである。

【講師プロフィール】

原口貞吉(ハラグチ・テイキチ)78歳: 神学校卒業後、熊本(郷里)、名古屋、東京で46年間宣教活動に従事し、71歳で退職。現在、郷里にもどり熊本県山鹿市在住。熊本北聖書教会協力牧師、JTJ神学校(聖書地理担当)。



生涯の課題: 聖書歴史地理、地図、おもに、新約聖書時代の経路の解明

著書: 「パウロの歩いた道」(日本基督教団出版局 1996年)

「福音を伝えた道 聖書歴史地図 詳細版」(ナザレ企画 2004年)。

●席上献金あり。

一般社団法人 聖書考古学資料館 (TMBA)

〒101-0062 千代田区神田駿河台2の1 OCCビル403号

Tel.03-3296-8889 <http://www.tmbsa-museum.jp>